



✿ ミャンマーでの研修事業

近年、ミャンマーがニュース等で取り上げられる機会が多くなっています。政治的な動きに関する報道が多いですが、経済関係とともに文化について報じられることもあり、以前よりは身近な国と感じられるようになってきているのではないのでしょうか。奈良文化財研究所は、1994年度から2000年度にかけて、ミャンマーとの間で考古学専門家の研修事業をおこなっていました。長い中断がありましたが、2013年度より文化庁の拠点交流事業を受託した東京文化財研究所から考古分野を委託されて、以前と同様の事業を実施しています。

研修は、ミャンマー文化省考古・国立博物館局の専門家に対しておこなうもので、ミャンマーでの現地研修と、日本に招へいしての研修とを毎年実施してきました。考古・国立博物館局は、大学のような施設として「考古学フィールドスクール」を設置して若手職員に対する専門教育を進めているので、その場を利用させていただいて現地研修をおこないました。このスクールは、2014年に世界遺産として登録されたピューの古代都市群のひとつであるシュリ・クシェトラ遺跡の中にあります。この立地を活かし、写真の撮影手法を研修する時には、広大

な遺跡の中に点在する遺構も撮影の対象とすることができました。シュリ・クシェトラ遺跡は、ピイという比較的大きな町の近くに位置しており、ヤンゴンからは車で6時間ほどかかります。アクセスは少し大変ですが、世界遺産への登録もあって観光客が急増しているそうです。

奈文研は、2013年度に土器の観察と実測に関する研修、2014年度は文化財写真についての研修、そして2015年度は遺跡整備に関する研修をおこないました。専門家を日本に招いておこなう研修も、それぞれの年度でミャンマーでの現地研修と対応するものを実施しています。意外に思われるかもしれませんが、ミャンマーでは長年にわたり、遺跡の発掘調査や宮殿跡の復元整備などが、国家事業として独自に継続しておこなわれてきており、考古学関係者の意欲は大変高いものがあります。毎年の研修でも受講生はとても熱心で、講師に対してたくさん質問も寄せられています。私たちも、多様で豊かなミャンマーの考古遺跡について知るにつれ、奈文研が持っている文化財関係の様々なノウハウを伝えるという研修事業が、知識を一方的に伝えるのではなく、何かを共同で作り上げていくことのように感じています。

(企画調整部 森本 晋)



土器の実測実習



遺跡の整備計画実習